

令和7年度 萩市自立支援協議会 事業実績報告(リーダー会議)

リーダー会議は、萩市の地域課題をよりスピーディーかつ効果的に解決するため、令和7年度より新たに始動した組織です。

各法人の管理者層が参画し、現場の課題を政策や具体的な研修へとつなげる「司令塔」の役割を担っています。

1.組織運営の刷新と課題解決力の強化

・これまでの部会単位での検討に加え、組織横断的な「リーダー会議」を設置したことで、以下の成果が得られました。

【意思決定の迅速化】

・各事業所の管理者・代表者が直接協議に加わることで、具体的かつ実効性の高い意見交換が可能となりました。

【役割の整理】

・他市の先進事例を参考に、課題の抽出・整理から研修の企画までをリーダー会議が集約して担う体制を構築しました。

【ネットワークの深化】

・法人の垣根を越えた連携が強まり地域全体で人材を育成する土壌が整いつつあります。

2.障がい福祉を支える「人」の育成(研修事業)

・質の高いサービスを提供し続けるため、リーダー会議が中心となって2つの研修を企画・実施しました。

【虐待防止研修】

・社会福祉法人ふたば園との共催により、外部講師を招いた講義とパネルディスカッションを実施。延べ8法人、約150名が参加し、「支援のジレンマ」について深く考える機会となりました。

【意思決定支援スキルアップ研修】

・「意思決定支援の基礎を学ぼう！」をテーマに、リーダー会議メンバーがゼロから企画。オンライン含め約70名が参加。活発な議論が行われ、参加者からは継続開催を望む声が多く寄せられました。

3.今後の展開と「コアチーム」の編成

・次年度は、これまでの成果をさらに具体化させるため、以下の取り組みを推進します。

【「コアチーム」による集中検討】

・リーダー会議で整理された特定の課題(緊急性が高いものや専門性が強いもの)に対し、機動的に動く「コアチーム」を別途編成し、解決に向けた具体的な道筋をつくります。

【組織の周知啓発】

・自立支援協議会や基幹相談支援センターの役割を広く知っていただくための広報活動を検討します。

【継続的な人材育成】

・研修事業を定例化し、萩市の障がい福祉事業に携わる人材の繋がりスキル向上を支援します。